

テーマ2 不登校対応

地域と学校の連携・協働による 不登校児童への支援

発表者 浅口市立寄島小学校 教頭 池上 宗一郎

コメンテーター 野澤 令照 氏

(CSマイスター、利府町文化交流センター「リフノス」センター長)

学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
岡山県浅口市	131名	令和元年度	17名	5回	2名

学校教育目標

ふるさとに誇りをもち 心豊かで たくましく自ら学び実践する子どもの育成 **（CS共育目標 育てよう！生きる力と、もやいの心をもつ子ども）**

学校・地域の特徴

- ・人口減少、少子高齢化が進み、人間関係の希薄化や地域の活性化が課題である。
- ・児童は明るく素直で、目標に向かって頑張ろうとする。しかし、家庭の教育力低下から、基本的な生活習慣等に課題のある児童が増加傾向にある。
- ・小規模校ではあるが、数年前は、別室登校児が多く対応に追われた。現在では、不登校傾向の児童が8名と増加傾向にある。

学校運営協議会の概要

委員の構成

- ・地域学校協働活動推進員
- ・主任児童委員
- ・一般財団法人代表（元地域おこし協力隊員）
- ・漁業組合代表
- ・自然保護団体
- ・元中学校長
- ・文化協会代表
- ・岡山大学大学院教授 等

これまでの主な議題例

- ・育てたい子どもの姿
- ・社会に開かれた教育課程
- ・非認知能力
- ・学力向上
- ・不登校の状況
- ・地域防災
- ・義務教育学校へ向けて

組織図



地域学校協働活動の特徴的な取組や工夫など

＜地域に開かれた教育課程「よりしま学」＞
生活科・総合的な学習を核に、5歳児～中学3年生まで10年間の教育課程に位置づけ、海をテーマに、歴史・産業・環境等様々な分野において課題解決型学習等を活用した地域学習。

中学生や大学生、教員、保護者、地域住民約50名での熟議や、学校運営協議会で、地域の声を教育課程に反映させ編成した。

地域学校協働活動推進員（主任児童委員）

主任児童委員・民生委員は、学校等と家庭の間にある地域社会の見守り役で、地域の子どもや家庭の悩みや問題の情報収集、訪問活動、専門機関への橋渡し・連携等の役割がある

学運協 委員

一定の権限と責任

- ・生徒指導上の課題に対して情報共有
- ・課題に対してタイムリーな対応が可能



児童や教職員との強い信頼関係を構築

別室登校、不登校傾向の児童の増加



不登校の状況や学校の対応策を説明したが、
解決策はでなかった。

学校運営
協議会

地域学校協働活動推進員（主任児童委員）

学校やSCとの
連携・協働

- ・不登校が小学校の大きな課題と認識
- ・家庭状況の説明から、今まで関わりをもっていた家庭の子ども



学校運営協議会で説明がなければ、不登校傾向だと気づいていない

ケース会議

保護者との
つながり

同じ地域に暮らす住民としての視点

「顔の見える関係」を地域の家庭と構築

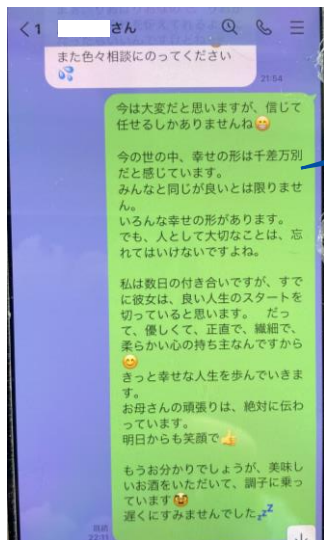
◆A児の場合

- ・4年生から登校できなくなった。
- ・適応指導教室に通い始めたが、3学期から母親が同行しないと学校へ来ることができなくなった。
- ・6年生の3学期頃、朝から母親と登校、給食前に母親の迎えで下校
- ・母親の仕事の関係で、当面下校を一緒にできないことに

推進員が、A児の地区で一緒に下校するボランティア（民生委

さらに、広く地域の方々とのつながりに！

＜母親と学運協委員（元中学校長先生）との信頼関係が構築＞

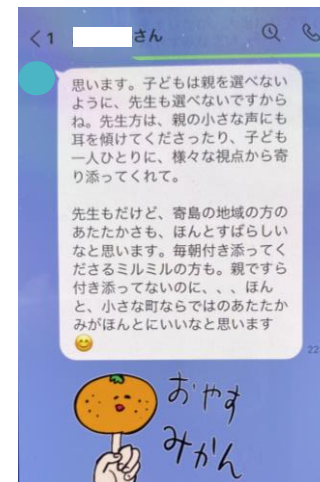


みんな同じではない、
千差万別な幸せの形

当たり前ことができ
ないわが子についての
辛さや変容

不登校であるわが子
に対する思い

自己決定させることの
大切さ



...略...

先生もただで、寄島の地域の方のあたたかさ、ほんとすばらしいなと思います。毎朝付き添ってくださる地域の方も。親ですら付き添っていないのに、...ほんと、小さな町ならではのあたたかみがほんとにいいなと思います。

「地域の存在のありがたさ」

<事例から感じたこと>

- ・小学生からの関わりは、中学生になって同様の対応が必要なときにも、対応可能となる。
- ・小さい頃から地域の方々とつながっていれば、学校を卒業しても、地域で声をかけたり、身近な話をしたりと、孤立を未然に防ぐ可能性がある。

「地域（第3の大人）の目線」

事態が悪化する前の未然防止のためにも

学校運営協議会と、主任児童委員・民生委員との連携・協働は重要

学校運営協議会委員への選出は有効